

第 10 回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事録

日 時：平成 21 年 1 月 21 日（水） 15:00 ～ 17:40

場 所：(株)国際建設技術研究所 本社 9 階会議室

出席者：鎌田会長、葛目幹事、森幹事、松沢会員、吉田会員、内田会員、藤原（記録）
以上 7 名（順不同、敬称略）

配布資料：10-0 第 10 回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事次第

10-1 第 9 回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事録（案）

10-2 EPMA によるコンクリート試料の分析例：吉田会員

10-3 土木学会規準として制定が望まれる試験方法に関する講習会：鎌田会長

10-4 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針」改定講習会参加募集：鎌田会長

議 事：

1. 会長挨拶

開催の挨拶を鎌田会長が行った。今回は記念すべき第 10 回目の開催であり、今後は外部に向けてアクションを起こしていきたいとの所信表明があった。

2. 第 9 回議事録（案）の確認

吉田会員より説明があり、内容確認が行われ承諾された。

3. 話題提供

- (1) 松沢会員より、「大型コンクリート部材の内部探査について」および「原発で開発した配管等埋設物探査について」と題して、開発中の調査技術についての紹介があった。

前者は、PC 鋼材のシース内に圧縮空気を注入し、圧力の径時変化からグラウトの未充填範囲を定量的に評価する調査手法（空圧法と称している）で、横締め鋼材でよく使われている衝撃弾性波法の適用が難しい主ケーブルの調査手法として開発が進められている。微破壊の手法であるが、調査時に開けた穿孔を鋼材の腐食状態の確認に利用できるなどのメリットもある。

後者は、コンクリートだけを削孔できる特殊なドリルを用いて構造物に細孔を開け、そこに ECT コイルを挿入して周囲の配管を調査する手法である。収録データや評価の考え方について現場での適用例をもとに説明があった。現在、対象物の位置が評価できるようにセンサーの高度化が進められている。

葛目幹事から、構造物の管理者からは PC 鋼材の破断を調査する手法の開発が望まれており、ONDA で検討するテーマになるかもしれないとの意見があった。

- (2) 吉田会員より、「EPMA によるコンクリート試料の分析例」と題して、日本建築総合試験所に新しく導入された EPMA の紹介があった。

装置の概略構成や測定原理、エネルギー分散型 X 線分光器（EDS）と波長分散型 X 線分光器（WDS）の違いについての説明があったあと、コアの分析例をもとに分析の手順や解析画像の説明があった。

試料調整などの準備段階に多大な労力と時間がかかるため、試料の搬入から EPMA による

測定までには2～3週間を要することなどの説明もあった。

4. ONDA ホームページのリニューアルについて

内田会員より、リニューアルされた ONDA のホームページについての報告があった。新しいホームページは、Joomla というフリーソフトで作成されており、情報の更新やデザインやレイアウトの変更が容易にできるなどのメリットがある。

また、従来のサーバでは容量が不足していたため、新たなサーバ（新規サーバの現契約の容量は 1GB）をレンタルしたとの報告があった。サーバのレンタル費用については ONDA の会費で賄うことを皆で了承した。

5. その他

- (1) 鎌田会長から、「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針の改定講習会」および「土木学会規準として制定が望まれる試験方法に関する講習会」が近く開催されるとの紹介があった。
- (2) 森幹事から、松沢会員が4月1日付けで千葉に転勤になるとの報告があった。また、それとともに会員を変更したいとの申し出があり、了承された。新規会員は次回の交流会で紹介される予定。

なお、松沢会員は休会会員とする。

6. 今後の予定

第11回交流会：平成21年3月25日（水）15時

場所：非破壊検査株式会社 本社（大阪市西区北堀江）

以上

（記録：藤原）